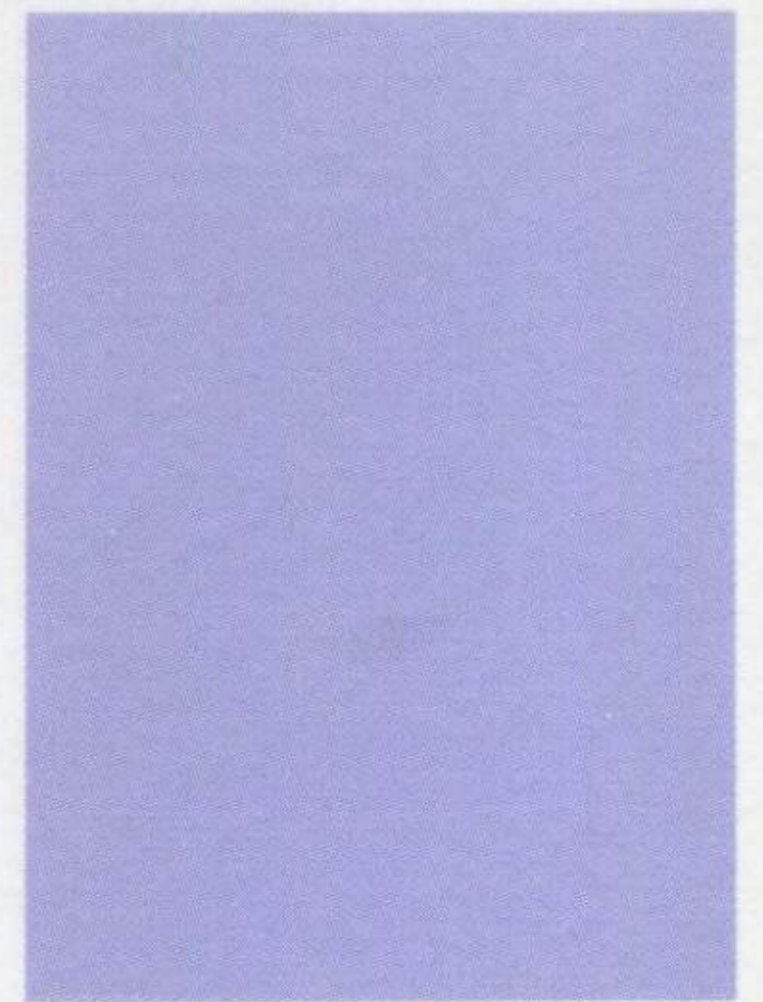
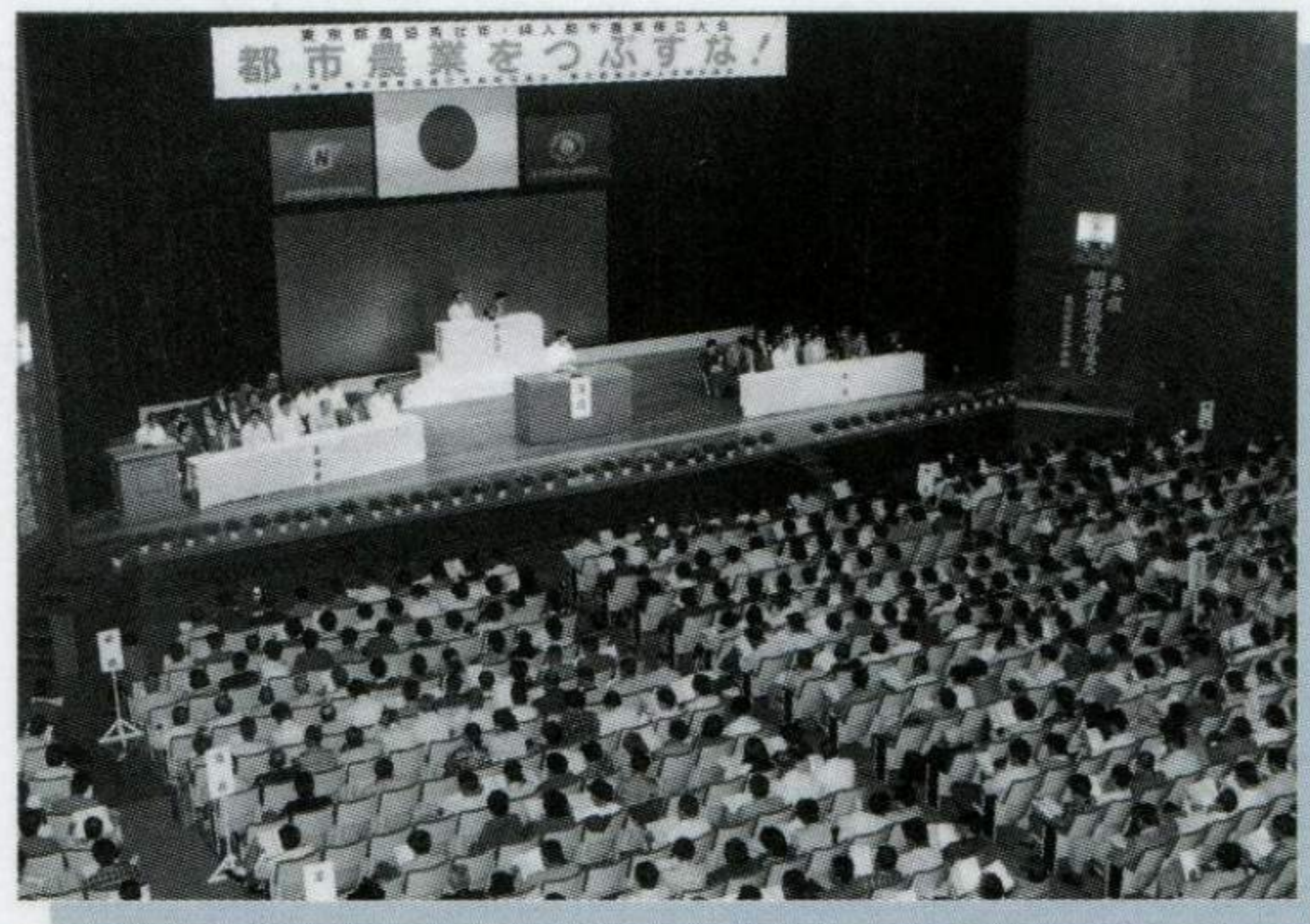
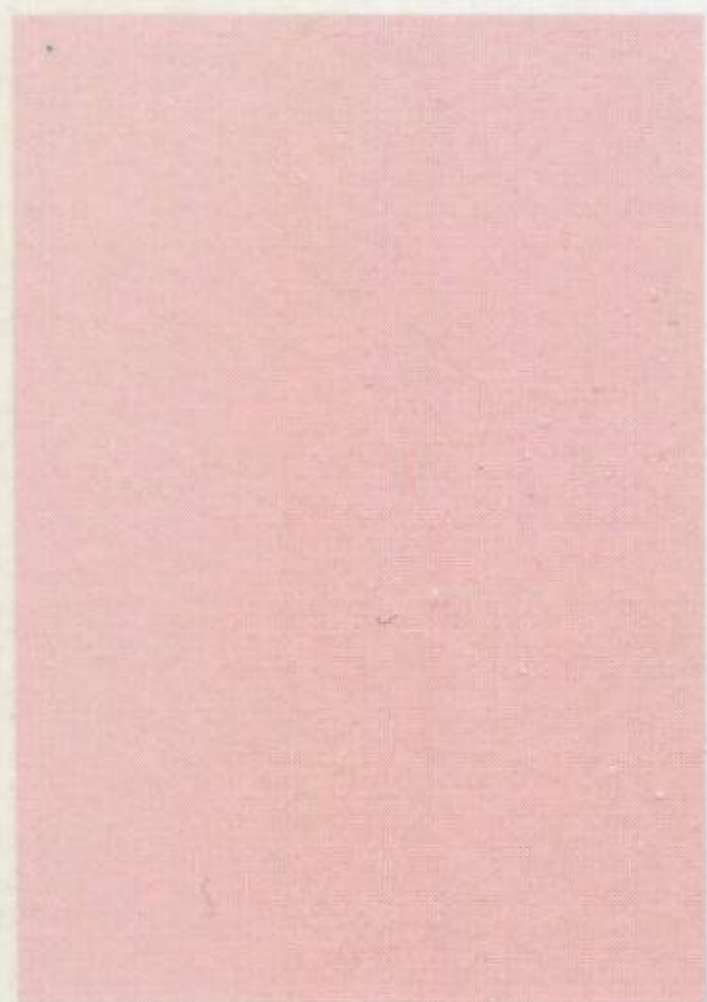
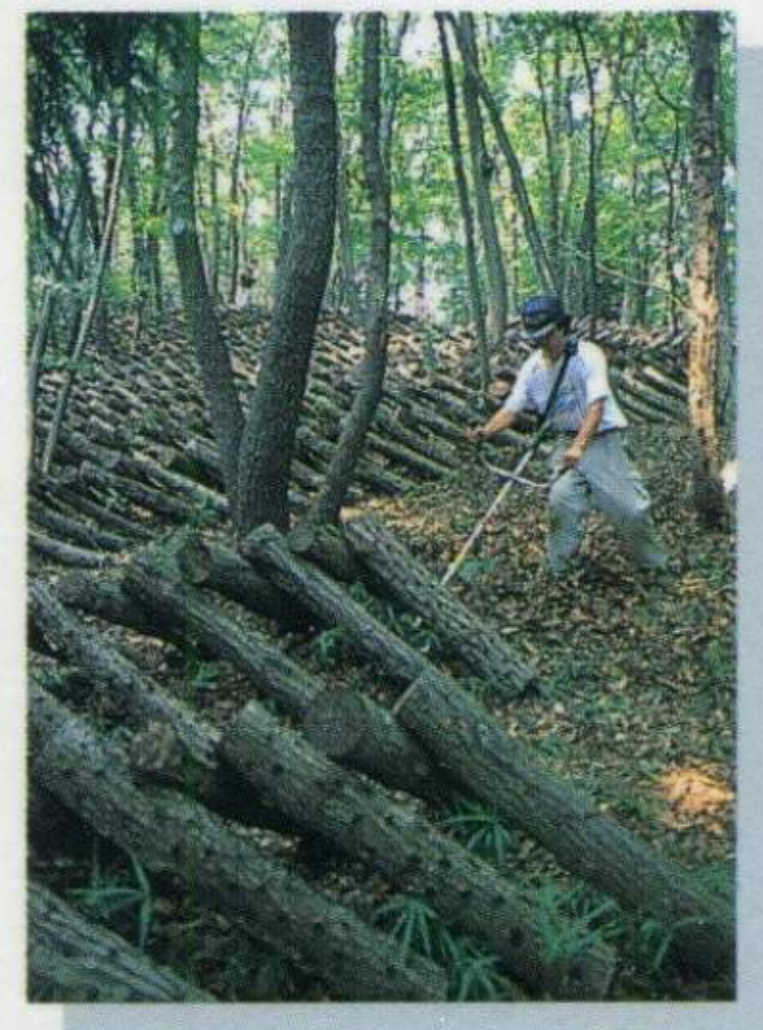
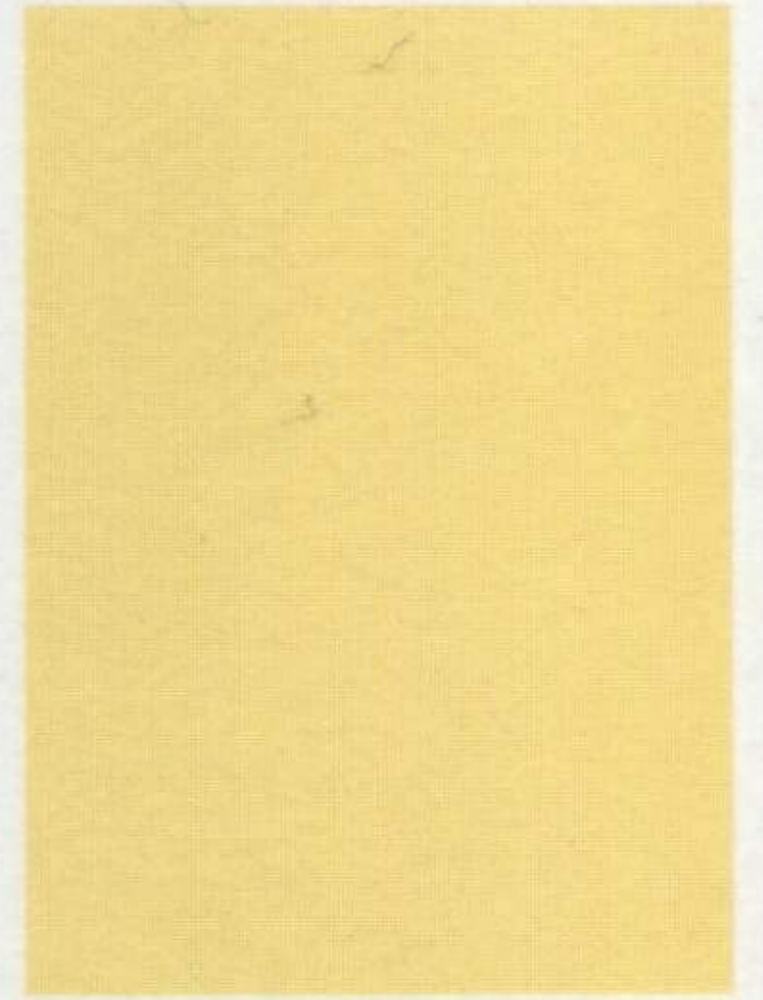
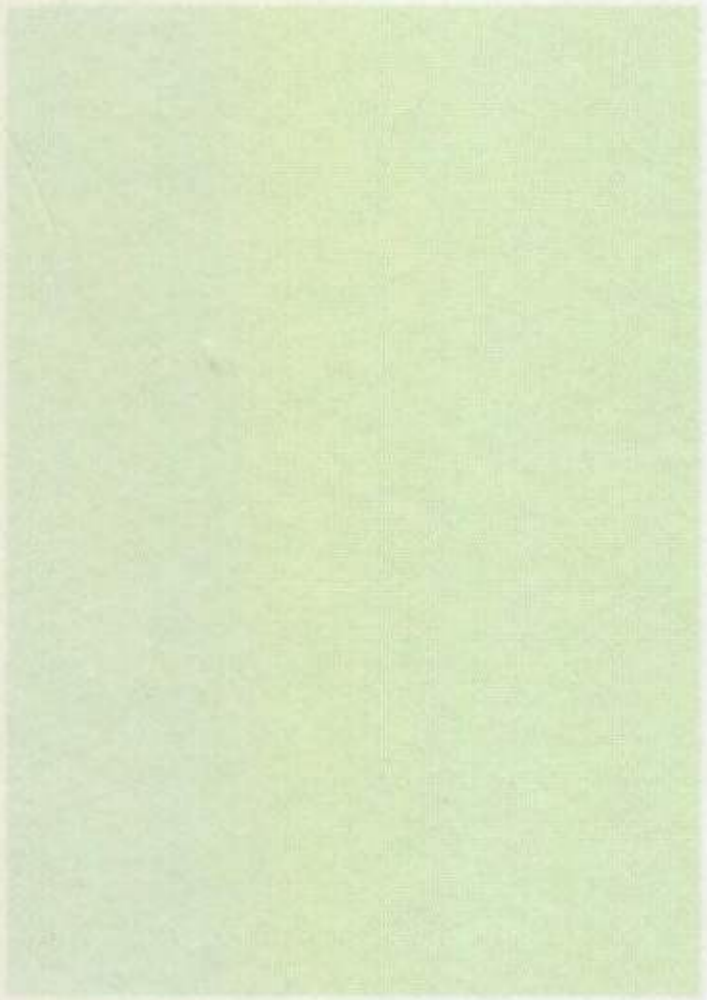


Wind

JA都青協40年史



〈活動実績発表〉

都市農業からの贈り物

大泉農業技術振興会 たか はし つとむ
高 橋 勉

都市農業からの贈り物

都市農業からの贈り物



1. 今、大泉の姿は

私達の住む練馬区は、東京都23区の西北に位置しかつては練馬大根の産地として、全国にその地名を知られておりましたが、今ではキャベツ等を中心とした都市農業地域であります。大泉地区管内には関越自動車道、西武鉄道が横断しており残り少ない生産緑地も102.9haと23区内全体の生産緑地約564haの約18%を占めております。

主な農産物は、野菜(キャベツ、ブロッコリー等)、軟弱野菜(ホウレン草等)、花卉植木、果樹等があり年間総生産額は約7億円あり、内野菜類は約4億5千万、花卉植木等で約2億5千万を占め管内の農産物生産の二本柱となっております。また立地条件を生かし柿、ブドウ等による観光農園、庭先販売など消費者ニーズに合わせた販売経路の確保に努めています。

大泉農業技術振興会の概況についてみますと、昭和25年に設立し現在盟友数は99名で12支部より構成さ

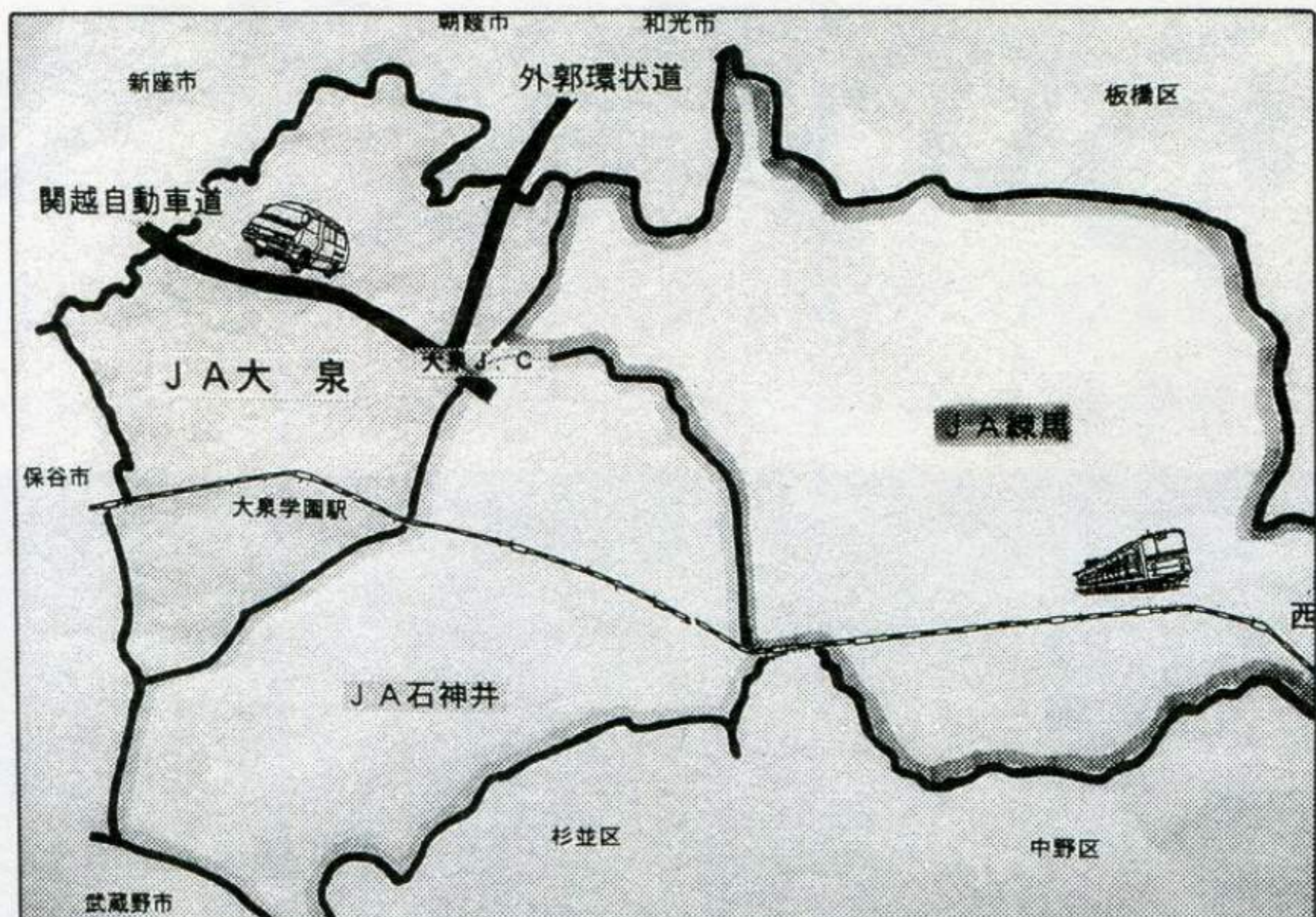
れております。

振興会では活動の分類を各生産目別とし野菜部、花卉部、また会員の社会活動及び一般教養習得を図るための社会部、40歳以下を青年部とした4部門に分け機能集団活動を推進しております。

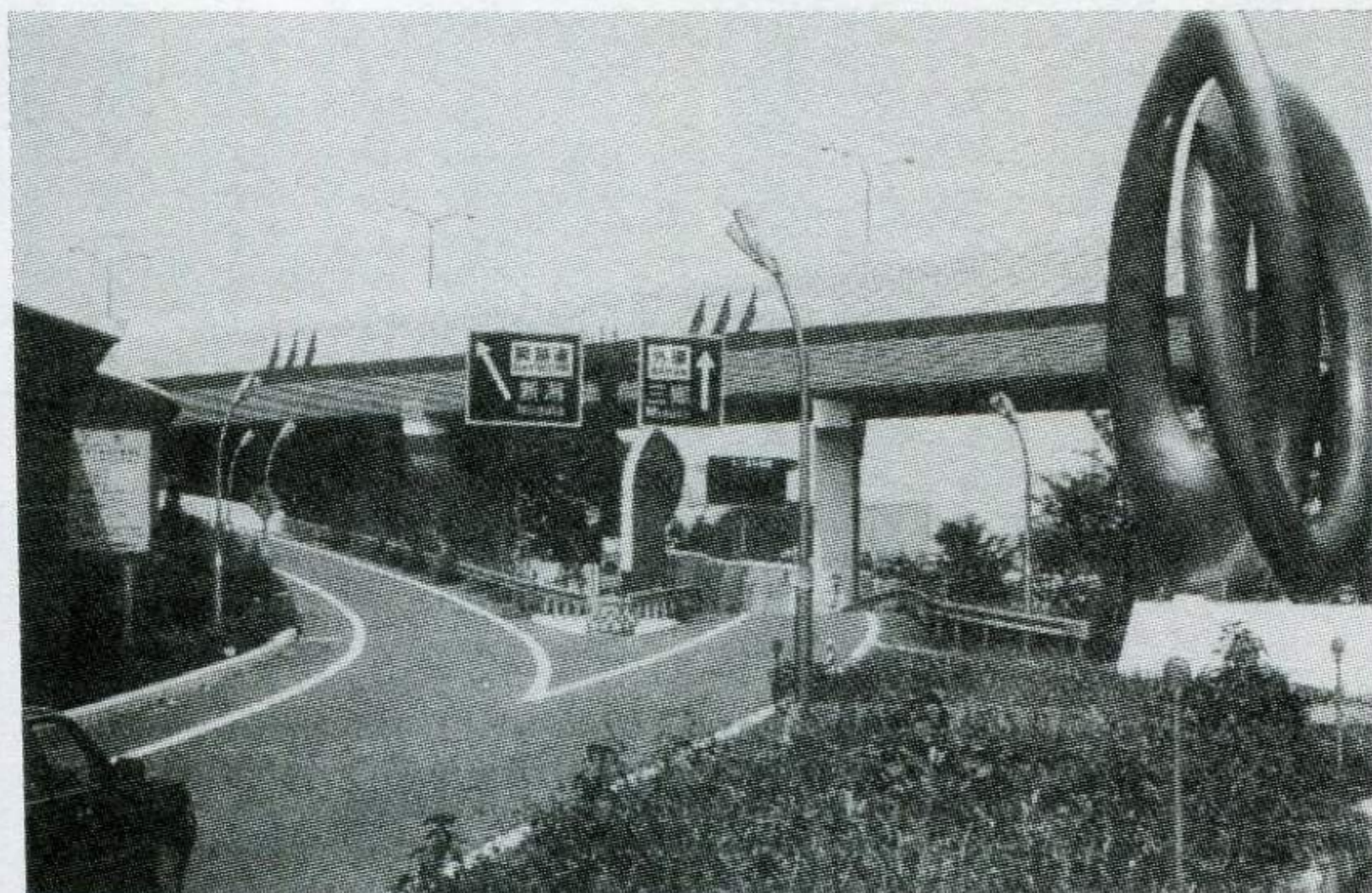
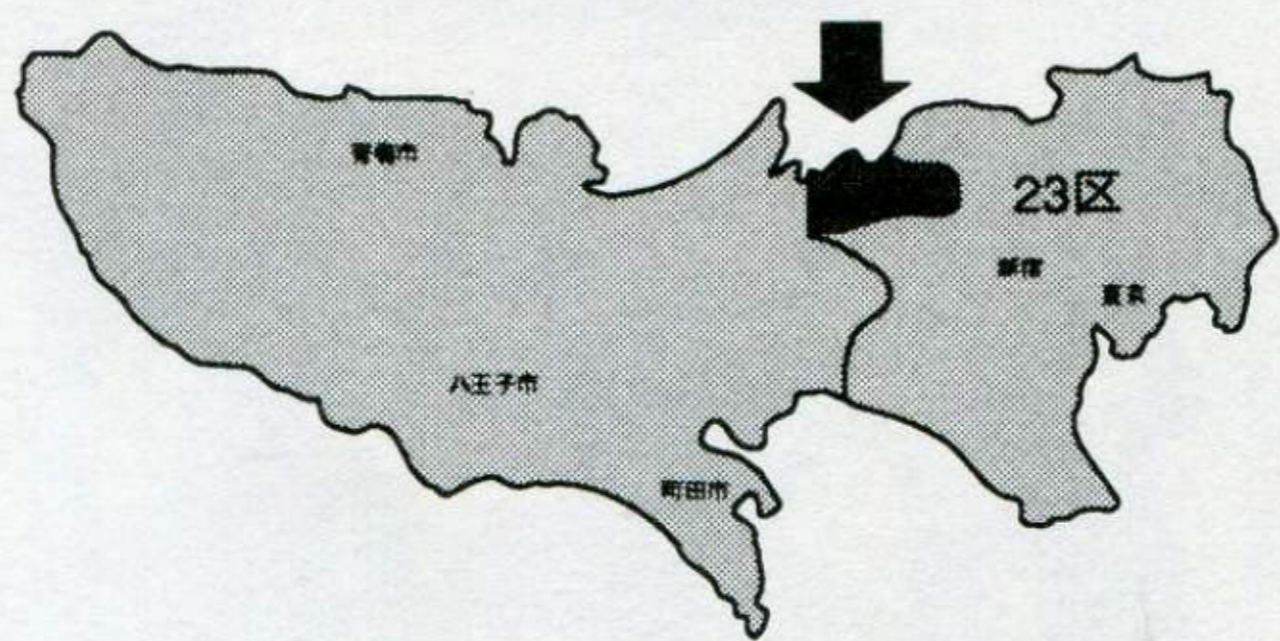
振興会の実践活動を申し上げますと、まず全体会議として本部役員を中心とする運営役員会を毎月1回行い、これにより農業技術に関する問題等を協議実践しています。

野菜部・花卉部では主に農業改良普及所による栽培技術講習会、現地検討会等を行い部員は積極的に専門技術の習得に日々努力しています。

農産物品評会、さつき展示会、菊花展示会、また花卉・植木・野菜即売会もJA大泉と共催で開催しており即売会等を通じ生産者、地域住民とJA大泉との密接なつながりができ、JA大泉の各事業にも大変プラスになり順調に推移しております。



JA大泉位置図



↑JA大泉の間近にある東京外郭環状道、関越自動車道の大泉IC



←大泉特産の東京都契約キャベツ

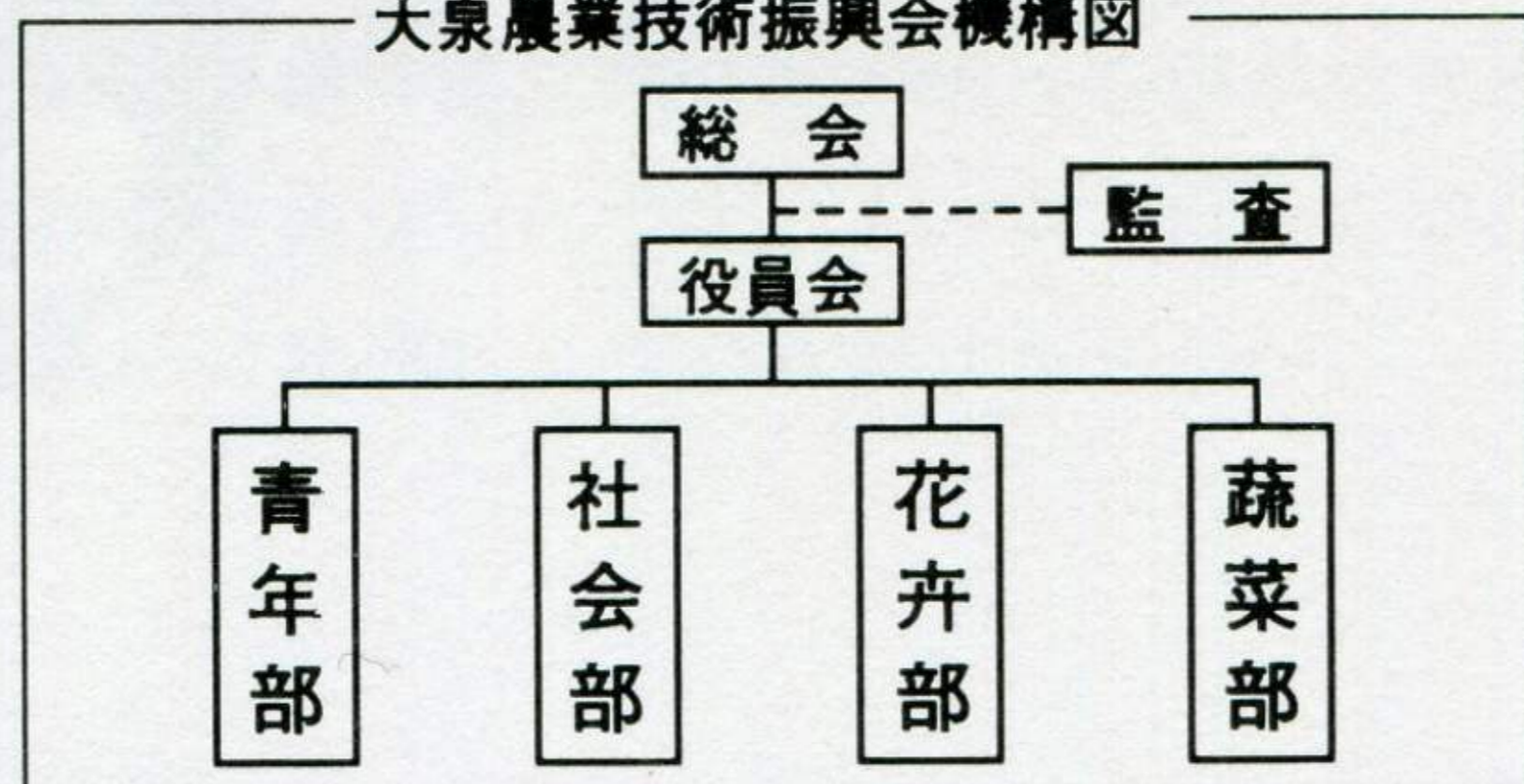


↑大泉で代表的なシクラメン栽培



←JA大泉恒例の花弁植木即売会

大泉農業技術振興会機構図



2. 新たなる展開

JA大泉のCI活動にも振興会は協力しており、JA大泉職員を対象に「JA大泉の理念」として大きな柱となっている、『農の新たなる価値』の理解の徹底を図る為に【JA大泉農業フォーラム】という講演会に講師として協力したり、青年部と職員との意見交換会にも参加しました。

練馬区主催による「野菜ウォークラリー」につきましても、当振興会と共催で野菜部、青年部も支援しております。これは単に、農の価値を体験によって地域住民に伝える為だけではなくトラクターやリヤカーを出し青年部員が先立って引っ張り、また参加者の子供達と一緒に引きながら参加者と青年部員とのコミュニケーションも大切に図っています。

振興会とは別組織となりますが、JA大泉新鮮組合という組織があり、この組合の生みの親は振興会野菜部なのであります。

平成元年に設立した新鮮組合は、パイプハウスの導入により露地栽培との複合経営による周年栽培への取り組みと、低農薬にし化学肥料は極力減らし有機物の施用により新鮮で安全な農産物への取り組み、という二点が目的となってスタートした組織であります。

販売経路としては地元スーパーに直接出荷しており、平成5年度の総生産額は約6千7百万円と、年々売上も増加の方向へ向っております。



↑練馬区主催による「野菜ウォークラリー」にも協力



シニア ● 野菜ウォークラリー
今日は野菜ウォークラリーに
参加させていただきました。お天気が
良かったです。子供達は楽しめて
いたみたいです。
11月15日の収穫体験は、
子供達も大人も、楽しかったです。
収穫体験は、子供達も大人も、
楽しかったです。収穫体験は、
子供達も大人も、楽しかったです。
収穫体験は、子供達も大人も、
楽しかったです。収穫体験は、
子供達も大人も、楽しかったです。

↑励みになる参加者からの御礼の手紙



↑パイプハウスの導入により意欲的に取り組む



↑大手スーパーに大泉特産野菜を供給

3.大泉のブランド化を目指して

こうした中で、振興会では今後、どのようにして都市農業を発展させ展開していくか振興会全体で時間を重ねて検討した結果、私達は次のような基本目標を掲げました。

- 一、有機、低農薬栽培による新鮮で安全な農産物のブランド化を図る。
- 一、直売施設等を整備し、地場消費の拡大を図る。
- 一、ふれあい農業を推進する。

以上が振興会の掲げる基本目標として示されました。

そして、私達がこの基本目標を実行するにあたり、いろいろと模索している中、会員の中から東京都の事業である「都市地域農業農産物特産化推進事業」を是非大泉地区を対象地区にして貰いたいという意見が沸き上がってきたのです。

その結果、平成三年度に本事業がスタートしました。まず一年目は地域の農産物の中で基幹となる作目を、特産化品目として育成する推進計画を行いました。

二年目の事業では、特産化推進のため対象品目等の品質の向上、生産量の増加と地場流通生産の促進を図る活動をしてきました。そこで私達はこの事業によりパイプハウス、ログハウスの直売施設、植木の枝などを砕くチップパー、堆肥製造機、底面灌水用装置、除湿機などの施設・機械を導入しこの事業を進めてきました。

この事業で導入したログハウスの直売施設は、管内で6ヶ所導入され部員の殆どが以前よりも売り上げが倍増しておるとのことです。

このように直売所は、地区内の地域住民から大評判を得るようになったのです。

最後の三年目のブランド化推進事業では、生産した作目を地域に根ざした特産化品目として確立し地場流通の促進を図る活動を行ってきました。

そこで振興会では、直売所を設置できない他の部員から「直売に参加したい」という大変強い要望がありJA



↑幼稚園児によるイモ掘り農業体験

大泉の敷地内に共同直売所を設けることにし、そこで売る農産物は有機低農薬栽培であるという本事業の目的とするブランド化を図り、販売活動を行って行くという基本方針が纏ったのであります。

まず、最初に地場流通を促進するためアンテナショップを設置し地区内の農産物の宣伝をして貰う為、地元スーパーと青果店の二店に売場の一部を有機低農薬野菜コーナーとして販売して貰いました。お客様からは、「今後もこういう野菜を買いたい」という声が大変多く、確実に有機低農薬野菜について関心が向くようになってきたのであります。

直売所は、全国各地に続々と登場していますが、とにかく二十三区内では常設の直売所が初めてということもあり、私達は次のようなコンセプトを打ち出したのです。



↑地場消費の拡大の為スーパーのイベントに協力



↑どの大根を抜こうかな？



↑消費者とコミュニケーションを図りながらの直売

4. 農の情報の発信基地

この直売所の特徴の一つとして、地元のものだけでなく、全国各地の農産物、農産加工品を揃えて直売するところ。生産者から消費者へ、消費者から生産者へと、農の情報の発信基地にしたいということでもあります。

このようなコンセプトをもった直売所にしたいという熱い思いを胸に、私達は目標に向かって実行したのです。

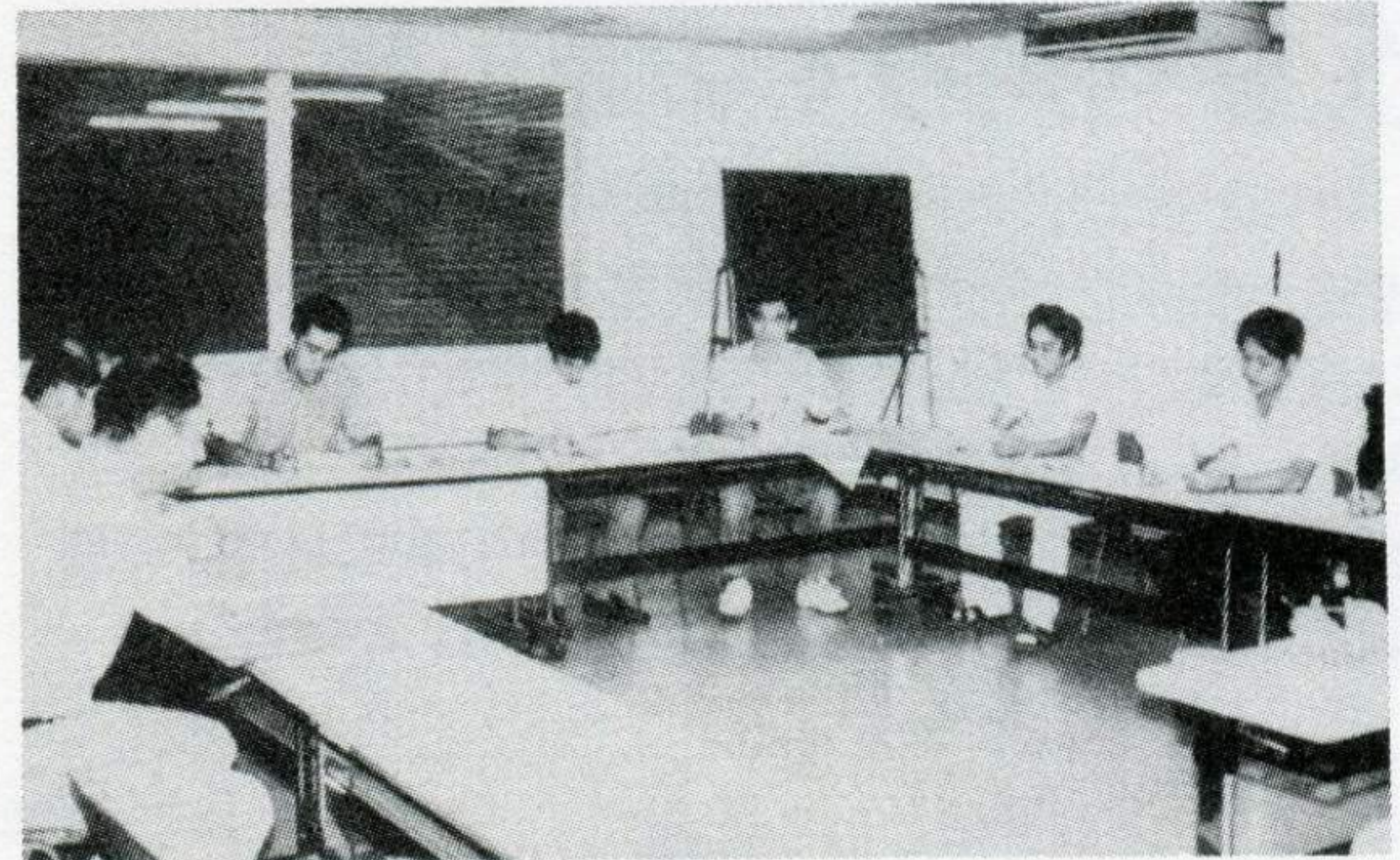
まず最初に私達は各部会で代表者を選出して、その代表者によりJA大泉農産物直売所設立準備委員会を平成5年9月に発足させ、平成6年3月まで毎月会議は夜遅くまで行いました。

「都市化が進みやりにくくなった農業だけど、しかし周りには多くの消費者がいる。私達は何を伝えたらいいのか、明日の農業を考える場にしたい。」

「朝採りの野菜を、じかにお客さんと顔を合わせながら販売できるのがいい。とれたて新鮮野菜を味わってもらいたい。」

私達は、このような農業に対する『夢』に向って本格的に事業展開が始まったのです。

開設準備委員会では、直売所運営に関する課題とし

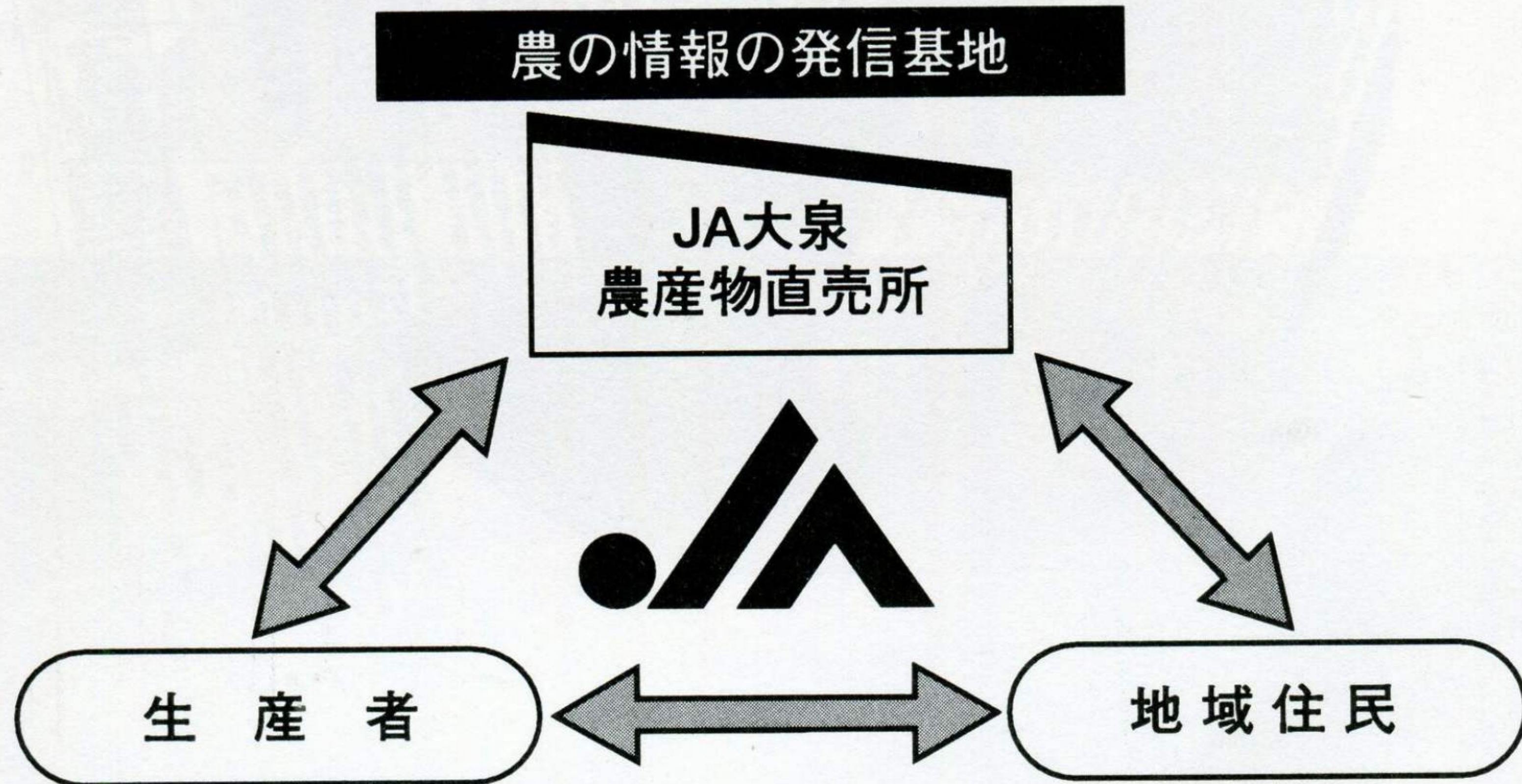


↑ 連日連夜の代表者会議

て規約・運営・生産体制・販売体制等これらについて協議し試案を作成する作業部会を設置し検討してきました。

こうして、振興会が中心となって生まれた団体『JA大泉農産物直売組合』が平成6年4月8日、生産者37名により発足しました。

平成6年4月30日には直売所が完成し、オープンの日を5月24日火曜日からとし、それに向けて毎週一回の出荷者会議を行いました。



↑ JA大泉農産物直売組合設立総会



↑ ワー、私にも大根抜けたわ！

5. 夢へ向けての第一歩

そして遂にオープンの日がやってきました。当日は大泉産の農産物だけでなく、静岡県のおさだ農園さんからは減農薬のオレンジから作ったマーマレード、同県の上崎さんからは無農薬のお茶、岐阜県の横田さんからは天日干しの椎茸なども販売し、新潟県からは低農薬、有機栽培の特別栽培米の予約も受け付けました。

おかげさまで直売所の農産物の方も、午前中には完売してしまい大好評でした。

マスコミの方も、商店街や住宅地が密集する東京23区では、ここJA大泉の直売所がはじめてということもあって、当日はNHKなど多数の取材攻勢で非常に慌たしい日でした。



↑5月24日遂にオープン



↑新潟県からは大原さんによる特別栽培米の受付



↑大好評のため対応に追われる生産者

6.この輪を明日に向けて

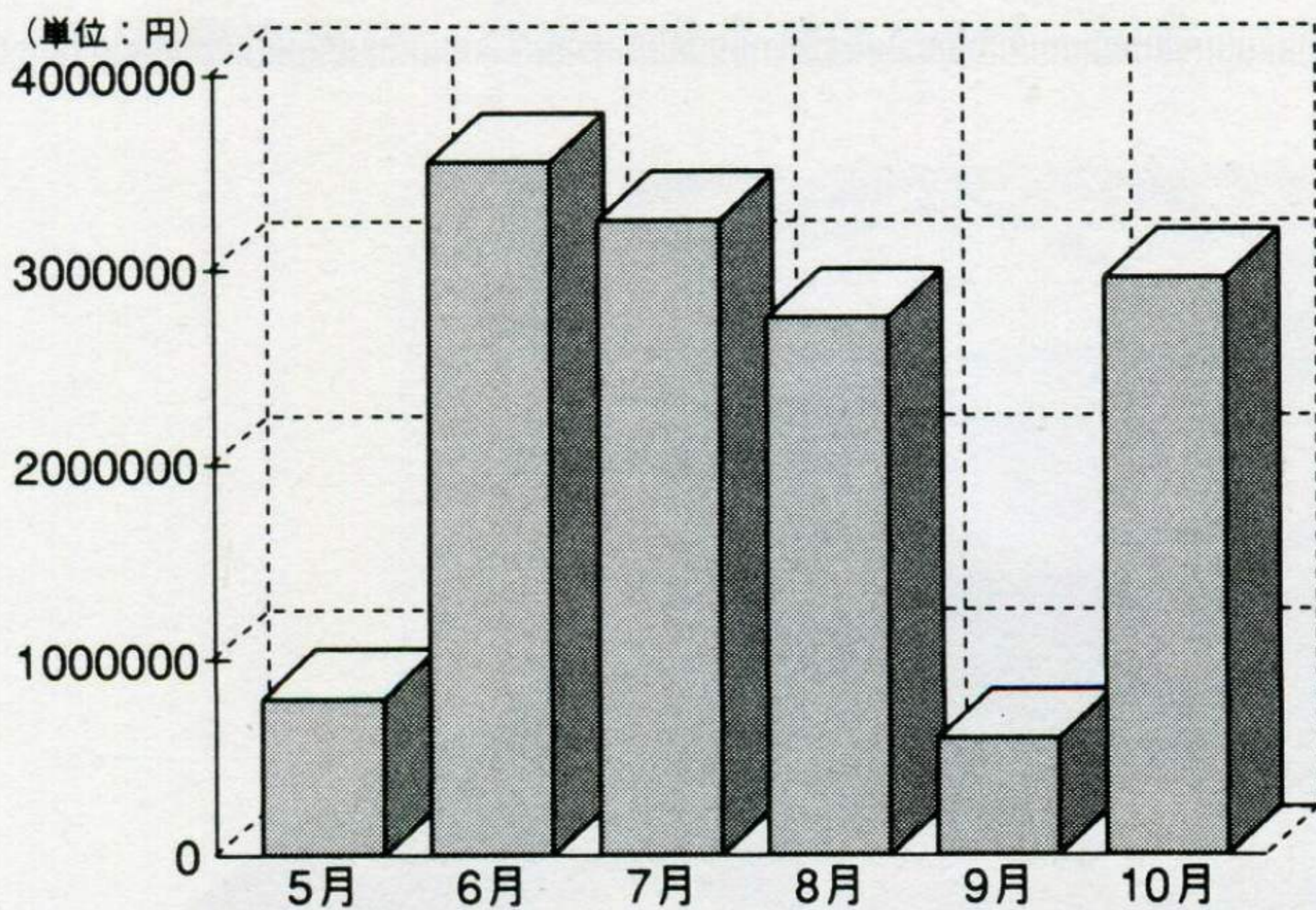
現在、営業日は月火木金土の5日間、営業時間は午前10時～午後3時までで、パート二人と生産者が一人ずつ交替で販売しており、売り上げも順調に推移しております。

これから直売組合では子供向け農業体験など、イベントもただ今企画中であります。

最後に「農業は素晴らしい！ここ大泉でがんばる

ぞ!!」という決意も新たに、今はまだ小さな輪ですがもっともっと大きな輪とし、このすばらしい都市農業からの贈り物を皆様に届けたいと思います。

JA大泉農産物直売組合月別売上



消費者の声を明日に生かす

消費者アンケート

1.性別は？
男 女

2.年齢は？
20歳代 (10代も含む) 30歳代 40歳代 50歳以上

3.お住まいは？
大泉市 大泉町 西大泉町 大泉町 大泉町 大泉町
1区以外の市域内 区外 (居住地にどちらからですか)

4.通利程度は？
はじめて 1回 2回 3回以上

5.車で来られたか？
 はい いいえ

6.感想について
 大変面白い 普通 やや面白い 悪い どちらでもない

アンケート結果の抜粋:
「野菜が新鮮でおいしいです。また、お土産にもいいです。」
「子供と一緒に来たいです。農業体験がほしいです。」
「もっと種類を増やしてほしいです。」
「お土産として買いたいです。」
「もっと安くしてほしいです。」
「もっと種類を増やしてほしいです。」
「お土産として買いたいです。」
「もっと安くしてほしいです。」



↑土のある暮らしを次の子供達へ



↑消費者と生産者との輪、この輪をもっと大きく